

令和3年

季刊

秋季号

Vol.79

亞東



蔡英文總統 國慶節 演說 (2021. 10. 10)



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名) Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七—四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研

究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出

版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収

集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対

する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年、東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日、「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため二〇一八年九月に名称を「日本台湾親善協会」に変更しました。会員一同、会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「亜東」令和三年 秋季号・目次

| | |
|----------------------|-----|
| 一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷 | 二頁 |
| 目次・協会役員名簿 | 三頁 |
| 日本台湾親善協会崎谷秀彦理事を偲んで | 四頁 |
| 元駐日台湾副代表 郭 仲熙 | |
| 福島県と台湾の絆 | 五頁 |
| 日本台湾親善協会理事 岩城 光英 | |
| 我々は全身全霊で台湾を支援する | 八頁 |
| 日本台湾親善協会会長 衛藤征士郎 | |
| 衛藤征士郎会長のご当選を祝して | 八頁 |
| 中国軍機の防空識別圏侵入に関して | 九頁 |
| 日本台湾親善協会副会長 張 建國 | |
| 日本から台湾 台湾から日本へ | 十頁 |
| 大切な善の循環 | |
| 日本台湾親善協会業務執行理事 | |
| 榎本 有里(林月理) | |
| 東京と横浜での中華民国 | |
| 建国祈念日祝典レポート | 十二頁 |
| 日本台湾親善協会理事 富田 家彰 | |
| トピックス | 十四頁 |
| 事務局だより・新入会員のご紹介 | 十五頁 |

令和3年5月24日 現在

役員名簿

| | | | | | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|------|------|-------|-----|-----|-----|
| 名誉会長 | 玉澤徳一郎 | | | | | | | | |
| 会長 | 衛藤征士郎 | | | | | | | | |
| 副会長 | 山本順三 | 張 碧華 | 建国 善信 | | | | | | |
| | 並木 正芳 | | | | | | | | |
| 専務理事 | 赤松 則宏 | | | | | | | | |
| 業務執行理事 | 藤山 雅康 | 笹岡 恭亮 | | | | | | | |
| | 榎本 有里 | | | | | | | | |
| 理事 | 21名 | | | | | | | | |
| | 衛藤征士郎 | 張 谷 | 建国彦郎 | 張 藤山 | 碧華康英 | 山本山 | 順三茂 | 並木野 | 正芳雅 |
| | 赤松則宏 | 崎森 | 秀彦康 | 藤山城 | 雅光善 | 益山本 | 有里貴 | 伊野子 | 万寿夫 |
| | 笹岡恭亮 | 明石 | 康散人 | 岩田 | | 多 | | 加藤 | 光淑 |
| | 富田家彰 | | | | | | | | |
| | 岩本由起子 | | | | | | | | |
| 監事 | 2名 | | 李 八 | ルドル | | 鈴木 慶一 | | | |
| 事務局 | | | 崎谷 秀彦 | 李 孔 | | | | | |

一般社団法人 日本台湾親善協会



日本台湾親善協会 崎谷秀彦理事を偲んで



崎谷大先輩のご霊前に謹んでお別れの言葉を申し上げます。

台湾にてまたご拝眉の日を楽しみにしていたのに、あまりにも突然の、お旅立ちになったとの知らせを受け、まだ気持ちの整理がつかずにあります。

ほほえみの 丹頂一羽 翔ちにけり

海を隔てて遙拝の形で大先輩とお別れることになるとは思ってもおりませんでした。いつも優しい眼差しでお呼び下さる親しきお声、奥深い意味を噛み締めさせてくれる興味尽きない駄洒落、そして啖呵を切るあの名調子、もうこれは二度と聞こえないと思うと、本当に寂しくてやり切れません。

振り返ってみれば、大先輩との出会いは一九九四年に初めて東京勤務の頃、大先輩が総会開催の事前打ち合わせで白金台までお出でになった時でした。あれ以来親しく接してください、私ども大使館の者が砂防会館の事務所へお訪ねに行つたたびに、いつも暖かくお迎え頂き、格別のご厚情に預かり、誠に感謝の思いでいっぱいです。

大先輩は日頃から日台親善交流のために特筆すべきご足跡を残されました。二〇数年前から、協会の専務理事として長い間

在日華僑や台湾人留学生を熱心に世話されたほか、台湾人留学生の日本国会見学や日本国会議員との交流などに特段のお力を注がれました。また、協会の会員の皆様による台湾訪問や台湾政府要人との懇談や日本の重要な施設の研修など、日台交流に関する様々な事業の実施に並々ならぬご尽力で取り組んでこられました。

このように、大先輩は常に先見の明をもって、日台親善交流の諸事業を推進され、日台友好に多大なご貢献を重ねて来られました。近年日台関係が飛躍的に発展しており、お互いに自然災害が起きた時に助け合う関係が日台間に根付いていることは双方の強き絆を表わしているのです。

海超えて 差し伸べる手は 暖かい

去年コロナ感染症が拡大して以来、今年六月より日本政府からすでに五回にわたって台湾へ延べ三九〇万回分のワクチンを支援してくださいました。さらに、昨年台湾のバイナツプルが中国から輸入禁止とされたときに、日本各界がふるって台湾バイナツプルの販売促進をサポートしてくださいましたのも揺るぎない日台友好の証であり、まさに困った時に助け合うのが真の友です。

こうして日本各界の皆様か



らご応援を頂くたびに、万感胸に迫る思いです。こんなに緊密な日台関係が築き上げられたのは、ひとえに大先輩並びに日本各界皆様からのお力添えの賜物だと、重ね重ね厚くお礼申し上げます。

小生個人としても、大先輩から頂いたお導きに計り知れないものがありました。謹んでご永眠を悼むとともに、人生の師を失ったものの大なることを深く悲しんでおります。大先輩が点してくださった灯火はいつまでも消えることなく、在りし日のお姿とお教えがこれからも末永く私どもの心の中で生きておられます。今後も引き続き大先輩の台湾への熱きお思いを胸に、日台関係の更なる発展に努めて参りますので、どうか天国からお見守り下さいませ。

ここで日台関係へのご功績を偲びつつ、安らかなご冥福を祈りながら、ご生前のご指導に深い感謝を捧げ、追悼の言葉とさせていただきます。崎谷大先輩、さようなら。

令和三年一〇月一七日



元駐日台湾副代表

郭 仲熙 合掌

福島県と台湾との絆

岩城 光英

東日本大震災から十年八ヶ月が経ちました。震災直後から、台湾の皆様には真つ先に手を差し伸べていただき、二〇〇億円を上回る世界最大規模の義損金をはじめ様々なご支援をいただけてまいりました。改めまして心から感謝申し上げます。

そして私の地元福島県にも多大な貢献をいただいております。

そこで、現在私の知り得る福島と台湾との絆、交流についてご紹介いたします。

二〇一六年秋、私は福島県吹奏楽連盟からある相談を受けました。

大震災以降ご支援いただいた台湾の皆様感謝の気持ちを伝えると共に、復興に向かって歩み続ける福島の元気を発信するため、若手演奏者による吹奏楽団を台湾で公演させたいというものでした。連盟にとっては初めての海外公演となります。

早速、台北駐日経済文化代表處、

そして日本台湾交流協会の皆様をお願いをし、取り組みを始めました。公演会場の確保等いろいろな課題があり、紆余曲折もありましたが、関係各位のご尽力のおかげで、二〇一八年一月に実現することができました。

前年五月にオーディションを行ない、中学生から三十五歳までの七十五名で編成した吹奏楽団です。

一月五日の初日は台北市功学社ホール、二日目は新北市芸術文化センター、三日目は台中市市民広場を会場に演奏されました。どの会場も大盛況で、スタンディングオベーションが鳴り止みませんでした。

若い団員達は、音楽の素人の私からみても演奏を重ねるたびに自信を深め、より成長していくのがわかり、頼もしく思いました。

団員達の心を込めた演奏は台湾の皆様の上に響き、大きな感動を与えたと確信いたしました。私も改めて音楽の持つ力の大きさを実感しました。音楽の力によって、福島と台湾の絆がより強まった公演となりました。

さらに若い団員たちは、台湾の学生・生徒と交流したほか、歴史的建造物や偉人ゆかりの場所などを訪れ、日本と台湾の関係に理解を深めました。

福島県の若人にとって、とても意義のある訪台となりました。二〇一八年十一月には、日本在住の私の台湾の友人のご縁で、台湾の歯学部校友会の先生ご夫妻約三十名が福島においていな

りました。

沿岸部の被災地をご案内し、その日はスバリゾートハワイアンズに宿泊されました。

翌日は、発災直後被災地の老人福祉施設からの避難者を受け入れた病院で、その時の緊迫した状況の映像等をご覧いただき、意見交換を行いました。

被災当時の混乱していた状況と、復興へ向けて歩んでいる福島の姿を理解していただくことができました。

コロナ禍の二〇二〇年六月、その校友会の先生方から、三万枚ものマスクを送っていただきました。

ご視察された病院はじめ、医療機関、福祉施設、児童施設等にお届けしました。とてもとても喜んでいただきました。私も先生方のご厚情に涙が出る思いでした。本当にありがとうございます。

昨年、東日本大震災と原発事故の風評被害の払拭を目的に、台湾出身で日本在住の若者による組織「福島前進団」が結成されました。

これまでは被災地を中心に県内各地を取材エリアとしていましたが、これからは双葉郡に焦点を当てて、農業・観光・伝統文化・先端技術の四つのテーマで、深掘り取材をしていくそうです。

リーダーの呉延中さんは「福島の魅力を台湾に発信し、福島に興味を持つきっかけをつくりたい」と抱負を語ってくれてい

ます。心強い限りです。

本年九月十九日、Jヴィレッジで（台湾と福島の未来につながる交流事業）が開催されました。

小学生のサツカー「JＣカップ全国大会」に訪れた参加者に対して、福島と台湾の魅力を伝えたいという目的で、富田家彰理事が中心となって取り組まれた事業です。

台湾や福島の農産物（バナナ・桃）などを、在日台湾の皆様と福島の農家の皆様が協同して参加者に味わっていただくことで、交流を深めることができました。ありがたいことですね。

九月三十日には、東日本大震災以降の日本と台湾の災害について意見を交わす「日台防災シンポジウム―東日本大震災十年の歩みと教訓」がオンラインで開かれました。

政策研究大学院大学防災研究会代表で、福島学院大学副学長の武田文男先生が、復興の経緯や被災地に残る課題について解説しました。台湾国家災害防救科学技術センターの陳宏宇センター長等、日本、台湾の防災政策研究のキーパーソンが集い、東日本大震災から十年の歩みと教訓を踏まえて、今後の防災、減災の方向性の議論がなされました。

ところで、福島空港の国際線チャーター便は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で二〇二〇年度から運航実績がありません。

そこで、来る十一月二十七日に、福島空港の国際線チャーター便の運航再開を見据え、台湾のオンラインツアーを実施するこ

とになりました。

福島空港を会場に、画面越しで台湾の観光を楽しんでいたとき、運航再開後にチャーター便で台湾を訪れる人を増やしたいと考えています。会場と台湾をオンラインでつないで通信し、古都・台南の観光スポットや食べ物の魅力を紹介することになっています。

最後に、福島県議会の取り組みです。

本年三月に、中国が台湾産のパイナップルの輸入を停止したことを受け台湾の農家を応援しようと、福島県日台友好議員連盟で、十キロ入り四十三箱を購入しました。

六月県議会では、台湾のWHOへのオプザーバー参加を求める意見書について、全会一致で可決しています。

ご紹介した以外にも、福島県と台湾の交流は様々な分野で進められています。

私はこれからも大好きな台湾と地元福島のために力を尽くしていきたいと考えております。

先輩諸兄のご指導をよろしくお願いいたします。



我々は全身全霊で台湾を支援する

日本台湾親善協会 会長

衆議院議員 衛藤征士郎



第四十九回衆議院選挙の結果、自由民主党は絶対安定多数の議席を確保した。不安定、不確実の国際政治情勢の中、日本外交の真価が問われる。米中対立の狭間で、日本外交のイニシアティブとリーダーシップの下、泰然自若のプレゼンスを確立しなければならぬ。

最近の中国外交の攻勢は一段と激化している。特に中国の対台湾外交は、アジアのみならず米国、欧州各国に緊張と警戒感を著しく増幅させている。台湾の要人、国会議長、首相、外務大臣等に対する中国の制裁措置は、台湾の自由と民主主義の破壊をもたらすものであり、極めて深刻である。

我々日本台湾親善協会は、台湾の自由、民主主義、法治はアジア全体のキーストーンであり、「希望の星」と位置づけている。我々は全身全霊で台湾を支援する。先ず、日台間の悲願である、台湾のTPP参加を達成すべく全力で取り組む。台湾のWTO参加等、国際機関で十分な活躍の場が出来るように全力を挙げる。ここに改めて、我々の平素の熱き思い、確信と覚悟を披瀝して、メッセージと致します。

衛藤征士郎会長のご当選を祝して



第四十九回衆議院総選挙において、当協会会長の衛藤征士郎先生が激戦を勝ち抜き見事十三期目の当選をなされました。

会員関係者一同にとつてこの上ない喜びであり、心より祝意を表させていただきます。

これは、衛藤先生の高いお志とこれまでのご実績、ご努力が有権者の皆様から絶大なるご支持を受けられたものであり、また会員皆様方の切なる願いとご支持ご支援の賜物でもあり、当協会役員一同よりも厚く御礼申し上げます。

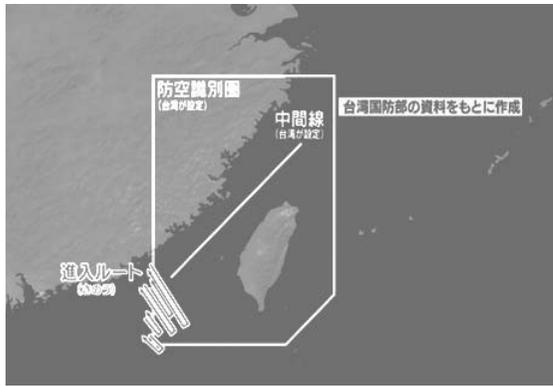
衛藤先生には、お元気で更にご活躍くださいますようご期待申し上げます。

中国軍機の防空識別圏侵入に関して

副会長 張 建国

最近、欧州 E U 諸国と台湾の交流、関係強化のニュースもあり、台湾をとりまく国際環境にとって喜ばしい状況が生まれつつあるように思えます。一方、中国の軍用機が頻繁に台湾の防空識別圏に侵入して、中国との緊張が伝えられています。

報道によれば、中国の軍用機が侵入している地域は、台湾の防空識別圏の南西端、台湾から南西方向海上の空域に集中しています。何故この空域に集中しているのでしょうか。中国の狙いは台湾に対する威嚇とともに南シナ海への意思表示だと思われるからです。実は、台湾の防空識別圏の南西端の外側に台湾が実効支配している東沙群島があります。位置は北緯二



〇度四三分、東経一一六度四二分、台湾の高雄から南西約四四〇km、香港から南東約三一五km、フィリピンマニラから北西約七七〇km という地点、まさに南シナ海の東端の入口にある孤島で、面積一・七四kmの東沙島と周囲の岩礁

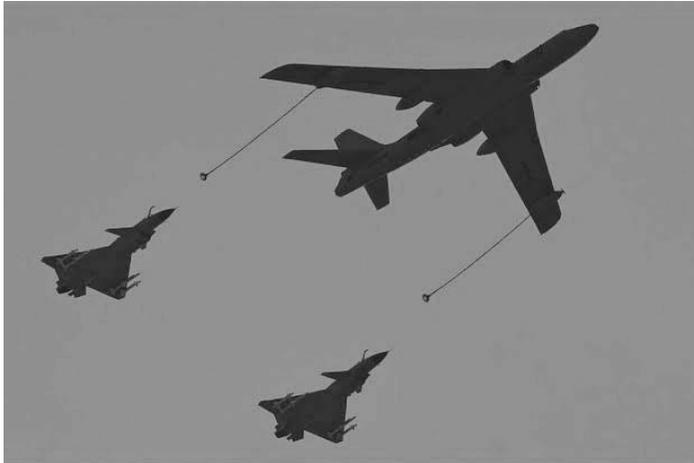
で構成される群島です。歴史的には明朝時代から中国の領域とされ、

九四五年以前は中国広東省惠州の管轄となっていました。戦前戦中は日本の実質占領下にあり、当初の空港も日本によって建設され、現在は一五五〇mの滑走路があり、Google

の地図を見ると島と環礁を見ることができません。一九四五年以降は一貫して中華民国の実効支配下であり、中華人民共和国の支配下に入ったことは無く、

一九九〇年に中華民国台湾高雄市の管轄になっています。南海の孤島であり、以前はあまり注目されませんでした。周囲には他の島が無い。一九九〇年代以降、海洋法が発効するとともに日本の国土面積にも匹敵する約三五万平方キロにおよぶ広大な排他的経済水域EEZが発生することとなり、台湾から海軍陸戦隊が常駐しているほか、二〇〇七年には国家海洋公園にも指定され、一時は民間人の渡航もできるなど観光開発の話





もありましたが、その後は進んでいません。地図を開いていただくとわかりますが、東沙群島は南シナ海東端の入口にあり、台湾海峡を通過する船舶、台湾上空を飛ぶ航空機が南シナ海へ向かう場合、必ず東沙群島のEEZを通過するのです。言うまでもありませんが、南シナ海の安全だけでなく、台湾の防衛にとっても軍事的に大変重要な拠点なのです。

そして、もう一つ留意すべきは、東沙群島については、中国と台湾以外に領有権の争いが無い、という点です。

中国が頻繁に台湾の防空識別圏の南西端に侵入しているのは、明らかに台湾本島と東沙群島の分断を狙った台湾に対する威嚇、そして南シナ海への意思表示が目的だと考えられます。

東アジア地域の安定安全のために、今後とも注視していく必要があると思われる。

日本から台湾 台湾から日本へ

〈大切な善の循環〉 榎本 有里(林月理)

本年は日本と台湾が今まで以上に互いを支え合う活動が行われました。まず、六月四日日本から台湾へ一二四万回分のワクチンが贈られたことを始めに、七月八日に一一三万回分、同月一五日に九七万四、六八〇回分、九月七日に六万四、〇〇〇回分、同月一四日に五〇万回分、合計三九〇万八、六八〇回分ものワクチンを五度に分けて日本政府が無償提供を行いました。台湾政府はその返礼として、九月一六日に新型コロナウイルスの在宅患者に使う酸素濃縮器約一千台と、自宅療養に必要な血中酸素飽和度を測る「パルスオキシメーター」一万台の医療物資を超党派の議員連盟「日華議員懇談会」古屋圭司会長を通じて日本に提供しました。

更に九月一七日、埼玉県新座市内の榎本有里自宅にてマスク寄贈式が行われました。台北駐日経済文化代表処謝長廷代表はじめ、「日台共榮首長連盟」発起人の吉田信解本庄市長、富岡勝則朝霞市長、小野克典桶川市長、中原恵人吉川市長、台湾医師連合会宮田功健会長など各所関係者が多数出席されました。

式典では謝長廷代表より「日本と台湾は長きにわたり助け合う絆がある。このパワーを世界に広げ、次の世代に継承したい」と挨拶がなされ、その言葉の通り、梱包された段ボール一つ一つに「日台友好 日本ありがとう」、マスクには「いっしょに

がんばろう」などのメッセージが強く刻まれ、日台の強い絆をより強固に示しました。同席した日台共栄首長連盟発起人の吉田信解本庄市長は「本当にありがとうございます。より一層日台の友好に努めて参りたいと思います」と感謝の意を述べられました。

これは台湾の不織布メーカー大手の易廷（イーティン）企業（桃園市）から一二四万枚のサージカルマスク（医療用マスク）を日本に寄贈することを記念する式典です。まず、マスクは九月一三日に船便で日本に到着し、謝長廷・台北駐日経済文化代表処の計らいで八〇の自治体に寄贈されました。

この八〇の自治体のうち、六三自治体は間もなく設立される「日台共栄首長連盟」加入の自治体です。マスクの枚数は今年六月四日に第一陣として日本から贈られたワクチン一二四万回分にちなみ同数の一二四万枚となりました。台湾からの支援品は各自治体によって用途が異なり、小中学生に配られる地域もありました。



2021年9月17日 台湾マスク寄贈式

又、一〇月一日に台湾の「東志企業」から六〇万枚のマスクが「日本関東副総統頼清徳友の会」と日本台湾親善協会衛藤征士郎会長を通じて、日本の各所への配布協力を行い、マスクは順次、熊本県熊本市や群馬県、沖縄県琉球大学のほか、東京、横浜、大阪の華僑学校などに届けられました。台北駐日経済文化代表処蔡明耀副代表からは「助け合いの精神の発揮は一種の善の循環。台日で協力して困難を乗り越えられればと心より期待いたします」との言葉をいただきました。

日本と台湾はこれまで大規模災害など相互に助け合ってきた。「まさかの時の友こそ真の友」この言葉を掲げ、私は日台友好関係が現在、そしてこれから未来も手を携え、共に歩んで行くことを強く願います。



10月11日 衛藤征士郎会長より感謝状贈呈
日本関東頼清徳友の会へ

東京と横浜での中華民国建国記念日祝典レポート

日本台湾親善協会理事 富田 家彰

二〇二二年一〇月一〇日は中華民国の建国記念日です。

新型コロナウイルスの影響により、東京では当日午前一〇時より四谷にある中華学校でささやかな国旗掲揚の式典を行いました。

主催は、中華民国留日東京華僑總會と中華民国留日東京同學會です。

日本台湾親善協会からは並木正芳副会長が出席した他、台北駐日経済文化代表処からは蔡明耀副代表、謝延淙僑務組組長、宋惠芸僑務組副組長、チャイナエアラインからは張鴻鐘日本支社長、多数の華僑が参列しました。一般の参加者も事前に予定していた一〇〇名を大幅に超え二〇〇名ほどの参加がありました。



式典の最初は、中華民国国旗の「国旗隊入場」からはじまります。東京中華學校の校門付近から国旗を持つ国旗隊が隊形を組み込み入場して校舎のステージ前まで行進したあと、旗立てに国旗を捧げます。

中華民国国旗が校舎の前に整然と並ぶと中華民国と日本国歌斉唱が行われ、続いて中華民国国旗歌に合わせ国旗掲揚を行いました。

主催者挨拶に留日東京華僑總會の張君成会長、留日東京同學會会長の陳佩權会長、台北駐日経済文化代表処の蔡明耀副代表、日本中華聯合總會の朱恭亮会長の挨拶がありました。

式典終了後、参加者全員による集合写真を撮りました。なおご参加いただいた方たちには月餅と記念冊子のお土産付きでした。

例年であれば、校庭にて「園遊会」として、盛大に台湾物産や飲食の出店が軒を並べるのですが、昨年と今年は新型コロナウイルスの影響で取りやめとなっています。



東京中華學校にて

一〇月一〇日午後二時に中華民国建国記念日の式典が、新築された「横浜中華学院」の新しい体育館で行われました。

本来は、市中パレードなど中華街全体を使って盛大に開催されるのですが、新型コロナウイルスにより式典だけの開催となりました。

式典の最初は、中華民国国旗の「国旗隊入場」です。その後国歌斉唱（中華民国国歌のみ）し、国旗と国父遺像に向けて「三鞠躬禮」という国父・孫文先生への拝礼を行いました。

留日横浜華僑総会の張儀会長の挨拶の後、各会からの挨拶と祝辞が続きます。

当会からは代理として、富田家彰理事が参加しました。

メインイベントは横浜中華街ならではの「獅子舞」を披露してくれました。高い支柱の上での演技は超絶技巧でしたが、何度かその支柱から落ちました。二人で演じる獅子舞ですが、落ちてはまた挑戦する姿は胸を打ちます。素晴らしい獅子舞でした。

最後は、参加者による集合写真でした。総参加者数は約八〇名でした。



横浜中華學校にて



トピックス

☆二〇二二年秋の叙勲に台湾から三人が受章

十一月三日、秋の外国人叙勲受章者が発表され、台湾から王金平元立法院長（国会議長）に旭日大綬章、何美玲総統府国策顧問に旭日重光章、林善超宝觉禅寺主任委員に旭日双光章が、日台友好関係発展に顕著な功績があつたとして贈られます。

王氏は、「台湾民主化の父」と評価される李登輝元総統（昨年ご逝去）に近く、台湾民主化にも熱心で、日台協力では献身的に尽力され、「東日本大震災慰問台湾訪日団」の団長を務めたほか、対日交流聯誼会（国会議員一三名中九五名加入の議員連盟）の名譽会長にも就任しております。



何氏は、台湾日本関係協会
科技交流委員会主任委員や対
日産業連携推進オフィスの名
譽顧問として日台連携しての
東南アジア市場進出などにも
寄与されています。

林氏は、台中市のお寺で日
本人遺骨を受け入れ、墓地の
維持管理や記念碑設置、慰霊
祭などを行っています。

☆持続可能社会の実現に積極的な台湾企業

国連のSDGs（持続可能な開発目標）は、世界共通目標だが、台湾企業も高い技術力やアイデアを駆使して世界の先陣を進む。ヘアケア製品のオーライトは、原料を化学成分から農産物に替え、世界初の全商品七七品目のゼロカーボン達成、工場照明を全てLEDとし業務用車両に電気自動車を採用するなどしている。電源管理・放熱ソリューションのデルタ電子は、設立以来「エコ・省エネ・地球にやさしい」を経営上の使命として取り組んでいる。世界トップ3のノートパソコンブランドのエイサーは効率的エネルギー管理やグリーンエネルギーの利により既に二〇年末にCO2六〇%削減を達成している。

それぞれの企業が再生可能エネルギー一〇〇%を二五年、三〇年、三五年までに実現するべく未来へと歩を進めている。

日本もCOP26で化石賞となるなど大きな課題だが、この分野でも日本・台湾のこれまで以上の協力が期待される。

☆新型コロナウイルス感染者、台湾の現況

新型コロナウイルス感染者は、最近ではほぼ一桁台となり、台湾産ワクチンの接種が開始され接種率も七割近くになるなどで国内規制は一部緩和され少しずつ日常に戻りつつあります。

しかしながら水際対策はなお厳しく、残念ながら観光目的の渡航は一切出来ない状況です。当協会恒例の中華民国・台湾双十節訪問も二年間延期されており、早期の緩和が望まれます。

事務局だより

*令和四年新春互礼会を左記の通り開催する予定です。
新年になりましたら、詳細をご通知申し上げますので、
多数のご参加お願い申し上げます。

開催日：令和四年二月三日 午後五時より

場 所：〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目四番三号

ホテル ルポール麹町 麹町会館

TEL 〇三(三二六五) 五三六五

尚、右記の通り予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況になれば、皆様の安全を第一に考え、予防措置の一環として、誠に勝手ながら、講演会・互礼会の開催を中止することに致します。

*新入会員のご紹介

個人会員

令和三年五月一日〜令和三年十月三十日

| | | |
|-------|-------|-------|
| 田畑 宣通 | 岡崎 清一 | 島田 美幸 |
| 藤田 博正 | 新屋 正利 | 吉田 瑞生 |
| 川松 克章 | | |

原稿募集

皆様の投稿をお待ちしております。台湾に関するものばかりでなく、身の回りのことなど、ご自由にお寄せ下さい。

紙媒体でもEメールでも事務所宛てにお送りいただければ幸いです。



季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 令和三年 秋季号 (No.79)

発行日 : 令和3年11月15日

発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会

発行人 : 衛藤征士郎

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : 株式会社サンユー



台湾の翼

チャイナエアラインなら、
うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案
充実の法人プログラム
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



www.china-airlines.com/jp/jp